医療通訳養成講座 2027

東京外国語大学with東京科学大学

命を支える 医療通訳を目指して





二大学の特色を活かしたカリキュラム

医療通訳に求められる知識・技術・倫理を、東京科学大学と東京外国語大学のそれぞれの特色を活かしたカリキュラムで学ぶことができます。

お申込情報はこちら！

開講形態 オンライン（病院実習は現地で行います）

開講言語 英語/中国語/スペイン語/ロシア語

開講日 4/24～12/11（8月を除く毎週土曜日）
（前期・後期各15回・全30回）

受講料 297，000円（前期・後期を通じて）

東京外国語大学
多言語多文化共生センター

カリキュラム紹介

前後期１限：医学概論Ⅰ・Ⅱ

本講義では、医療通訳に必要となる医学・医療の基礎知識を体系的に習得することを目的とします。人体の構造・機能や解剖学的名称、日本の保険医療制度などの基本事項を押さえたうえで、各診療科の医師が代表的な疾患や検査・治療について詳しく解説します。さらに、看護師、薬剤師、放射線技師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど、院内の多職種による講義を通じて、外国人患者対応の実際を学び、医療現場への理解を深めます。

前期２限：通訳概論

本講義では通訳の概論を取り扱います。通訳の形態や技術、学習法などについて、理論を通して考察する他、国内外の通訳の歴史も振り返りこれまで通訳行為が行われてきた経緯や背景を見ていきます。また通訳者の倫理規定や専門性などにも焦点を当て、言語的な要素のほかに通訳者に求められるものにはどういうものがあるかを検討します。さらに通訳者のセルフケアについて専門家をゲストスピーカーとしてお招きし話を伺うほか、外国人患者を診察する医師または相談に対応するカウンセラーからも話を伺う予定です。講義の中では適宜グループでのディスカッションを行い、能動的な参加や考察を促しながら、通訳という営為を多角的に捉えていきます。

後期２限：多文化共生基礎

グローバル化の加速により、日本社会の多言語・多文化化が進行するなか、ホスト社会と在留外国人とのあいだで様々な問題が顕在化してくるようになり、全国各地で多文化共生の推進が急務となっています。本授業では、在留外国人を取り巻く動向や歴史的経緯、政策や制度などの基礎的知識を身につけるほか、様々な課題に最前線で取り組む方々を講師として招き、リレー形式で「多文化共生のいま」をテーマに講義を行います。

前後期3限：医療通訳Ⅰ・Ⅱ

【英語】：コミュニティ通訳の中で、人の最もプライベートな生活に「介入する」通訳の場面が医療です。医療サービスの提供者・患者間の力のアンバランスの中に立たされる通訳者は、倫理による支えを受けながら、いかに正確に通訳を行うことができるかが重要となります。本授業では、インターアクション・マネージメントのスキルを身につけながら、医療英語の基本に始まり、通訳に必要な言語能力を発展させていくことをねらいとします。

【中国語】：医療通訳は、医療現場において医療者と患者あるいは患者家族との間で言葉の媒介者としてそのコミュニケーションを円滑にすることによって、患者の健康と福祉を守る専門職と言えます。本科目の中で、医療通訳倫理を理解し、医療通訳に必要な基本技能を具体的な練習を通して自分の中に落とし込み、他の科目で学んだ基礎知識を系統的に整理し、医療通訳の骨組みを把握することによって、講座が終わった後も自ら学習し続けられる力を身につけると同時に、臨床現場で逐次通訳ができることを目指します。

【スペイン語】：日本語が不十分な在日外国人が最も困難を抱える場面は医療機関です。本科目では、スペイン語圏の国々の多様性を踏まえつつ、医療通訳に必要な基礎用語の習得と、それを患者に伝わる表現へと変換するスキルを、シナリオやシミュレーションを通して実践的に学びます。さらに、一時停止依頼や用語確認など正確性を確保するための場面管理技術を演習で身につけ、言語が不自由な利用者の医療アクセスを支援する能力を養います。

【ロシア語】：医療の現場では時々予定していなかった検査などが行われるため、イレギュラーと思われるような場面での対応が求められることがあります。そのような場合でも適切な判断をするために必要な医療通訳の倫理を身につけること、そして、医療の現場でチームの一員として通訳ができるよう講座修了後も継続して学習ができることを目指して、ケーススタディをしながら医療通訳に必要な基本的な知識と通訳技術を学びます。

時間割

	1限　11：00～12：30	2限　14：00～15：30	3限　15：45～17：15
前期	医学概論Ⅰ※	通訳概論	医療通訳Ⅰ
後期	医学概論Ⅱ※	多文化共生基礎	医療通訳Ⅱ

※「医学概論Ⅰ」「医学概論Ⅱ」は、リアルタイム配信授業と東京科学大学提供によるオンデマンド配信授業を組み合わせた科目です。オンデマンド配信の日は期間内の都合の良い時間に受講できますが、リアルタイム配信の日は必ず指定された時間（1限　11：00～12：30）にアクセスして出席してください。

講師紹介

前後期１限：医学概論Ⅰ・Ⅱ

岡田卓也
東京科学大学病院 国際医療部長。南米での国際医療協力の経験を活かし、国内の医療機関における外国人患者の診療支援、院内体制の整備、医療通訳教育・人材育成に携わる。

前期２限：通訳概論

岩田久美
大阪外国語大学イスパニア語科卒業。愛知県立大学大学院コミュニティ通訳学コース（修士）修了。1992年よりフリーランス通訳。2011年東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター「コミュニティ通訳コース」第２期終了後、専門家相談会、弁護士事務所での相談通訳を担当し、2017年からMICかながわ医療通訳として活動。

後期２限：多文化共生基礎

小島祥美(コーディネーター)　他
東京外国語大学多言語多文化共生センター長/グローバル・イノベーション・デザイン・インスティテュート教授

前後期3限：医療通訳Ⅰ・Ⅱ

【英語】ヘザー・グラス
東京外国語大学特設日本語学科卒業。西オーストラリア大学経営修士を修了。通訳・翻訳会社を創設し、外交・商業分野において通訳者・翻訳者として長年活躍。オーストラリア職業教育訓練部門における通訳・翻訳者養成コースの教員となり、2004年からその全国資格の開発に携わる。グリフィス大学教育・プロフェショナルスタディーズ学部の博士研究課程在籍。

【英語】リヨーニ・スティックランド
オーストラリア国立大学で日本語・中国語を専攻した後、兵庫県宝塚市教育委員会及び宝塚歌劇団に勤務。20年間に及ぶ日本生活の末、オーストラリアに帰国し、認定翻訳者の資格を取得。西オーストラリア州マードック大学の博士課程を卒業した後、日本語講師として教えながら社会学書籍の和英訳書を数多く手がける。2008年にオーストラリア職業教育訓練部門における通訳者養成課程を修了、芸術、文化、教育交流などの幅広い通訳の実績を積み上げる。2022年以来、医療通訳者としても活躍。

【中国語】三木 紅虹
北京大学口腔医学院卒、東京医科歯科大学大学院歯科研究科修了、歯学博士。中国で歯科医師として勤務後日本に帰国し、主に横浜市で外国人相談やボランティア通訳を20年ほど経験。現在横浜市役所と東京科学大学病院に勤めながら、各地の自治体で医療通訳養成講座の講師をしている。

【スペイン語】エレーラ カディジョ ルルデス ロサリオ
朝日大学看護学科准教授。ペルー助産師、広島大学で保健学博士取得。20年の医療通訳経験を持ち、自治体・民間で通訳養成講師を務め、旧大阪外大大学院で医療通訳入門を担当。

【ロシア語】山田紀子
東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士前期課程修了。20年にわたり外国人患者のコーディネート及びロシア語医療通訳を行っている。一般社団法人国際メディカル・コーディネート事業者協会 代表理事。

【ロシア語】ヴィシェゴロツェワ・ヴィクトリア
モスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国大学卒業。2012年より日本で活動する有資格医療通訳者。NHKラジオ『まいにちロシア語』にネイティブスピーカーとして出演。

病院実習

東京科学大学病院での本格実習！

前期・後期の最終授業は、東京科学大学病院にて現地実習を行います。

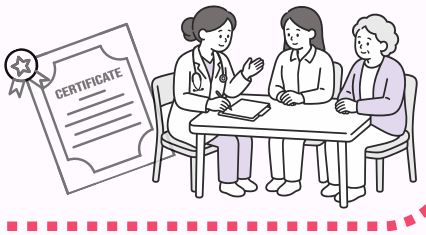


本物の医療現場で、現役の医師・看護師とともに、様々な医療現場を想定した実践的なロールプレイング形式で通訳を体験できます。現場の空気感を肌で感じながら、即戦力となる実践スキルが身につきます。

受講後のキャリア

医療通訳者として活躍するチャンスにつながります

本講座を修了された方には「履修証明書」を発行いたします。この証明書により、日本医療通訳協会が実施する「医療通訳技能検定試験」の受験資格を取得できます。



本講座について

日本在住の外国人数も訪日外国人数も増加している現在、医療安全の観点から医療の現場におけるコミュニケーションの重要性はますます高まっています。日本在住の外国人は、日本人と同様にライフステージの変化に伴って医療機関で受診する診療科が多岐にわたり、疾患も急性期から慢性期まで様々です。日本の保険証を持たない訪日外国人については、旅行中に医療機関を受診する必要が生じたり、先進医療を受ける目的を持っていたりするため、受入れルールを日本在住の患者さんとは別に整備している医療機関もあります。医療の現場におけるコミュニケーションをサポートする医療通訳は、様々な診療科や疾患の知識を持っていること、日本の医療制度における医療機関の機能や考え方を理解していること、そして外国人患者の文化的背景を知っていることが期待されています。さらには、医療の現場におけるコミュニケーションで特に大事な場面では、環境、場の雰囲気、言葉の使い方などに配慮があり、時には予定とは違う対応を必要とされることもあるため、自動的な通訳やAIにはできない要素が多く含まれています。

この講座は、医療の現場で必要とされる専門知識と、外国語及びコミュニケーションの知識を、各々を専門とする東京科学大学と東京外国語大学とが連携することで提供し、異なる言語と文化の間に立って医療従事者と受診者との的確なコミュニケーションを担うことのできるスペシャリストを養成することを目的としています。修了者は、日本在住の外国人の医療機関受診の場面でも、訪日外国人の医療機関受診にも対応し、チーム医療の一員として活躍することが期待されます。

学習成果の認定

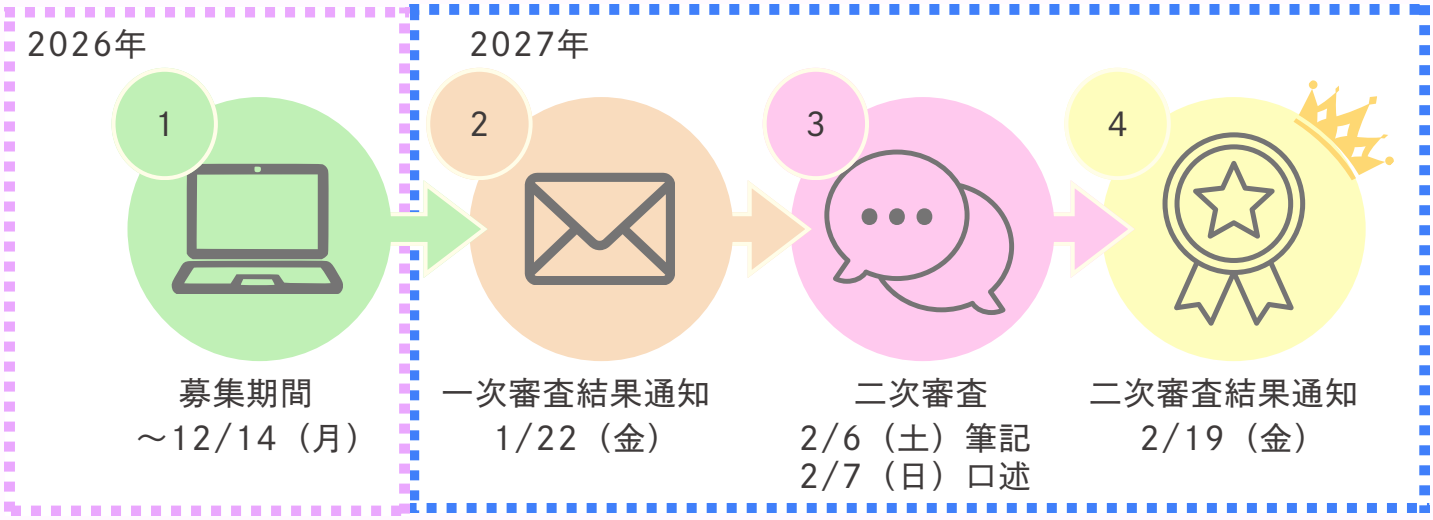
本講座は履修証明プログラムとして開講されており、すべての科目に合格した者には履修証明書を交付します。更に、以下の2点を達成した者には履修証明書と併せて、医療通訳養成講座修了証を発行します。

1.すべての科目で12回以上授業へ出席（病院実習は必須）すること

2.「医学概論Ⅰ・Ⅱ」および「医療通訳Ⅰ・Ⅱ」の後期終了後の最終評価すべてにおいてA以上の成績評価を受けること

※「医学概論Ⅰ・Ⅱ」および「医療通訳Ⅰ・Ⅱ」においては、前期終了時にも成績を通知しますが、修了証の発行要件として用いるのは、後期終了時に通知する成績評価です。

受講までの流れ



1：2026年12月14日（月）までに出願書類をご送付ください。出願はWebのみで受け付けます。
※受験資格：原則として大学を卒業し、日本語および受講言語について、高度な運用能力があること。
詳しくは、「多言語多文化共生センター」ウェブページからダウンロードできる「募集要項」をご確認ください。

2：一次審査（書類選考）の結果は、2027年1月22日（金）までに電子メールにて通知します。
※一次審査を通過された方には、二次審査のご案内も併せてお送りします。

3：2027年2月6日（土）・2月7日（日）に二次審査を実施します。両日参加が必須となります。
※二次審査につきましては、検定料6,000円がかかります。

4：二次審査の結果は、2027年2月19日（金）までに電子メールにて通知します。

お問い合わせ先

東京外国語大学　多言語多文化共生センター

e-mail：tc-jimu@tufs.ac.jp

TEL：042-330-5867 ※平日9:00-16:00（12:00-13:00は除く）